

塾生の成功の実現を目指して

—学力向上は多様な選択肢のある人生に直結する—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 1 : 開倫塾の教育目標と対応するキー・コンピテンシーズ、社会とは何ですか。

- A : (1) 「高い倫理」 「自律的に行動する能力」 → 「課題山積社会」
(2) 「高い学力」 「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」 → 「知識基盤社会」
(3) 「高い国際理解」 「多様な集団で行動する能力」 → 「グローバル社会」
* Diversity(多様性)民族・宗教・言語・文化・価値観・生活様式などが異なる集団でうまくや
っていく能力
(4) 「自己学習能力の育成」、「学習の学習(Learning To Learn)能力」
* 「読書による思慮深さ」を身に付けること
「新聞を読み自分で考える力、批判的思考能力」を身に付けること
* 「キー・コンピテンシーズ」とは、OECD PISA(15 歳時国際学力調査)の基底となる 3 つの学
力観(能力観)とその前提となる 2 つの条件

Q 2 : 開倫塾の経営の基本理念は何ですか。

- A : (1) 「顧客本位」 ①顧客とは塾生・保護者・地域社会
②自分の行きたい学校が「一流校」、その地域で入学が最も難しい学校が「ト
ップ校」
③学校の不足する教育を補い学力向上を図る、徹底的に補う
(例)NIE、躰教育、学習の方法
(2) 「独自能力」 ①社内・同業他社・異業種のベストプラクティスのベンチマーキングを踏ま
えた上でのイノベーション
②「学習の 3 段階理論(理解→定着→応用)」
・「理解」：辞書の活用、予習、ノート
・「定着」：3 大練習
・「応用」：過去問 5 年分を 5 回、間違いノート
③「学習する組織(Learning Organization)」づくり
(3) 「社員重視」 ①(TOP, MIDDLE, 一般社員と)階層に応じたエンパワーメント
②能力強化

- ③権限委譲
- ④(TOP, MIDDLE,一般社員と)階層に応じたエンプロイアビリティ
- ⑤生産性向上による雇用の維持・拡大
- ⑥経営情報・取り組み課題の共有
- ⑦「3 大業務」を更にジャンルに分け、「共通参照枠(コモン・フレーム・ワーク)として段階別(A₁, A₂, B₁, B₂, C₁, C₂)」にまとめる

(4)「社会との調和」①法令遵守

- ②セクシズム(性差別)・エイジズム(年齢差別)・レイシズム(出身による差別)の排除
- ③社会貢献活動の推進
 - ・ NGO、「開倫ユネスコ協会」の支援、人間の安全保障の推進：「保護(protect)と能力強化(empowerment)」
- ④ CSR(企業としての社会的責任)
 - ・ CO₂、チラシの削減
- ⑤社会的企業(社会の問題解決を目指す企業)
 - ・ 現在の大学進学率 52%が 80%を超える時までに、大学進学希望者に大学での教育研究に耐えられる学力を身に付けさせる学習支援サービスを提供することが今後の課題
 - ・ 問題解決型教育相談室
 - ・ 栃木刑務所での受刑者教育

4 月 29 日(月)
開倫杯ドッジボール大会
佐野総合運動場 71 チーム



Q 3 : 開倫塾の行動目標は何ですか。

A : (1)「教え方日本一」

①「全国模擬授業大会」

- * 2013 年で 8 回目。5 月 26 日(日)白鷗大学足利高等学校富田キャンパスで開催
- 5 月 27 日(月)は、第 1 回世界 5S サミットのコンパクト版を実施。①木村先生の基調講演、②清風高校、③足利市役所
- * 「全国模擬授業大会 IN 名古屋」はじめ全国各地で開催されるきっかけとなる
- ②本人の自覚を促す「武者語り」を毎授業時間ごとに 3 分以上行う

(2)「塾生数北関東一」

①「教え方日本一の開倫塾を北関東のすみずみに」

- ②学習塾の比較的少ない地域に立地(行きつ戻りつ、インクブロット出店)商圈と商圈を重ね合わせ、じゅうたん爆撃出店
- * 人口のドーナツ化現象を考え、初めは大きな町の中心には立地しない
- * 埼玉県・北東地域、東京・川の手地区、海外展開も目指す

Q 4 : 開倫塾の経営方針は何ですか。

- A : (1)「学ぶに値する塾づくり」 ①定期テスト 100 点で学校成績向上
②希望校合格率 100%の受験指導
- (2)「働くに値する職場づくり」 ①全社員の潜在的可能性の開花
②「出入り自由」、「85 歳過ぎまで働ける」職場づくり
③「キャリア権」推進企業
- (3)「倒産しない会社づくり」 ①企業は原則倒産、校舎は原則閉鎖
② Visionary Juku School 永続する学習塾づくり
③「いぶし銀経営」
④「四半期決算」
⑤「内部統制」のしくみづくり
⑥ BCP(サーズ時の取り組みは一番早かった：Nikkei ビジネス、TV も)

Q 5 : 開倫塾の 3 大業務とは何ですか。

- A : (1)「教育業務」・ Lesson Plan に基づいた毎回の授業(今日の目標 (Can Do) の明示)
- (2)「募集業務」・「退塾者サーベイ」は多くの同業他社が行っている。学校や CS 調査でも
- (3)「基本業務」・ 5S(整理・清掃・整頓・清潔・躰)「開倫 5S 学校」今秋 60 余校舎対象に開校

Q 6 : 開倫塾の社会的使命 (Mission ミッション)は何ですか。

- A : (1)「成功の実現」 ・ 学力向上による多様な選択肢のある人生の実現に貢献
- (2)「地域の教育力向上」 ・ 学力向上による正常に機能する社会の実現に貢献

Q 7 : これからの最大のテーマは「人づくり」と「標準化」による労働生産性向上、「経営品質の向上」だそうですね。

- A : (1)校舎数の壁(節目ごとに「方法」や「しくみ」を変え続ける)

- ① 11 校舎
- ② 68 校舎
- ③ 3 ケタ校舎
- ④ 当面のテーマは、無料で膨大な時間行っている学習支援サービスを磨き込み、少しずつ有料化すること
- ⑤ バラツキ・異常値
 - ・ 校舎間格差の是正、全社員の中でのバラツキ解消
 - ・ 塾生間のバラツキ・一人ひとりの塾生の中でのバラツキ解消

— 教育の質とは —

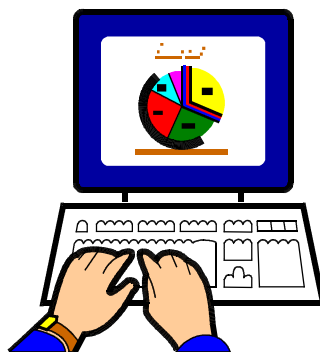
- ①カリキュラムの質
- ②教師の質
- ③マネジメントの質

(2)「開倫師範学校」

- ①「Kairin Teachers' School」
- ②「Kairin Principals' School」
- ③ブロック長スクール

(3)「開倫ビジネス・スクール」

- ①「TOEIC・TOEFL プログラム」
- ②「ワード・エクセルプログラム」
- ③「グローバル人財育成プログラム」
- ④「コミュニティカレッジ」も



(4)「5S」→「基礎教育」→「標準化」→「改善活動」→「ISO」→「統計的手法の活用」→「TQM」→「シックスシグマ」→「デミング賞」→「日本経営品質賞」

(5)開倫塾の経営品質向上の取り組み

- ① 1998 年 キックオフ
- ② 2000 年「栃木県経営品質賞」優秀賞受賞
- ③ 2002 年「栃木県経営品質賞」知事賞受賞
- ④ 2002 年「教育経営品質研究会」主催(東京丸の内年 10 回)
- ⑤ 2009 年「ハイサービス日本 300 選」受賞
- ⑥ 2012 年「開倫塾学習塾基本調査」スタート(年 3 回)

⑦ 学力向上の要因分析 統計的手法 データ解析

〈例〉辞書、予習、授業、3 大練習、過去問、間違いノート、自習室

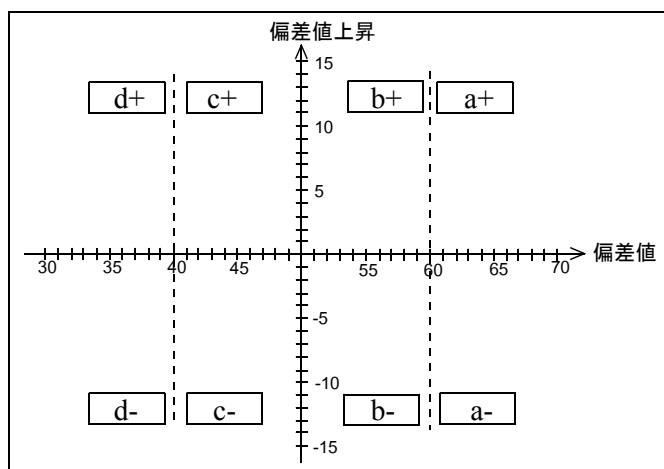
⑧成績の伸び(現在の偏差値、入塾時の偏差値)

⑨散布図(ヒストグラムレーダーチャート)

- ・ 要因分析の結果
- ・ 全校舎・全塾生と情報共有
- ・ 少しずつ校舎間・塾生間の「学習効果のバラツキ」が少なくなる

マーケティングの 4 P と顧客にとっての意味

- | | |
|-------------|------------|
| ・ Product | …顧客の問題解決 |
| ・ Price | …負担 |
| ・ place | …利便性 |
| ・ promotion | …コミュニケーション |



**「学習の 3 段階理論」を全塾生に正確に身に付けさせ、
塾生の学力を一人残らず大幅に向上させよう**

塾長 林 明夫

Q：「学習の 3 段階理論」とは何ですか。

A：(林明夫：以下省略)学力向上のための効果の上がる学習方法、勉強の仕方として、私が 30 年以上かけてまとめ上げた考え方です。

学習を「理解」、「定着」、「応用」の 3 つの段階に分け、それぞれの勉強の仕方を工夫しながら、学力を確実に上げる勉強方法です。

Q：学力は本当に上がるのですか。

A：本当かどうかは、この方法で勉強に取り組んだ方に聞いてみて下さい。学力が向上したという答えが必ず返ってくると思います。

Q：そうですか。そこまで言うのなら、試しにやってみようかな。では、お聞きします。第 1 段階の「理解」とは何ですか。

A：(1)よく質問して下さいました。ありがとうございます。「理解」とは、学習したことが「うん、なるほど」とよくわかること、腑(ふ)に落ちることです。

(2)この「理解」には、学校や塾などの先生の授業を聴いてよくわかる場合と、自分で教科書や参考書などを勉強してよくわかる場合の 2 つがあります。

(3)学校や塾などで先生から教えていただいて「理解」するときのポイントは、手を机の上に置き、先生の目を見て、先生の教えて下さることを熱心に聴くことです。先生の指示に従って、授業に熱心に参加することも大切です。授業中に大切と思われることはノートにどんどん取り続けることも、とても大切です。

(4)授業中に先生がいくら熱心に教えて下さっても、欠席や遅刻、早退、居眠り、おしゃべり、ケータイをしたりボーッとして他のことを考えていたりしたのでは「理解」の妨げになりますから、避けましょうね。

(5)自分で学校や塾の教科書・教材などを勉強して「理解」するときのポイントは、学校や塾の先生から授業を受けるときと同じ熱心さで、一行一行、一語一語ゆっくりとかみしめながら「ああ、これはこういうことなのか」とよくわかるまで、何回も繰り返して文章を読むことです。

(6)意味のわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と思い、辞書や各科目の用語集、学年別の参考書で意味を調べ、調べたことは科目別の意味調べノートに必ず記入しておくことです。

(7)予習は何のためにするのかと、考えたことがありますか。私は、よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨むためにするものと考えます。教科書や問題集を自分でよく読み、書かれていることがどのような意味なのかをまずは自分の力で考える。問題を自分の力でノートに解いてみる。自分で考えてどうしてもわからないところがあれば、辞書や科目別の用語集、学年別の参考書で調べる。その結果はノートに書いておく。それでもわからないときは、友達に聞いたり、学校の図書室や近くの図書館で調べたりする。インターネットでも調べてみる。このようにして何がわからないかをはっきりさせてから学校や塾の先生の授業に臨むことが、予習をする意味だと私は考えます。

以上が、第 1 段階の「理解」のポイントです。

Q：第2段階の「定着」とは何ですか。

A：「うん、なるほど」とよく「理解」したことを、「スミからスミまで」正確に「身に付ける」ことです。この「定着」のポイントは3つあります。

(1)1つ目のポイントは、学校や塾の授業でよく「理解」した教科書やテキスト、授業のときにとったノート、各科目別の意味調べノートなどを大きな声を出して読むこと、つまり音読することです。音読で大切なのは、書いてあることが自由自在にスラスラと読めるようになるまで何回も、何十回も、何百回も読む練習をすることです。これを「音読練習」と言います。「音読練習」を繰り返し行い、書いてあることをスミからスミまで全部覚えてしまうことが大事です。

この「音読練習」だけでも、学力は相当向上します。「音読練習」をして一度身に付けたことは、一生忘れません。

(2)2つ目のポイントは、よく書けないような語句や図は、すべての科目とも手が覚えてしまうくらいまで「書き取り練習」を徹底的に行うことです。「書き取り練習」が大事なものは、国語の漢字や英語のスペリング(綴り字)だけではありません。数学の公式や社会の地名・人名・出来事・憲法の条文、理科の図や公式、音楽の楽譜など図表も含め教科書などに出ていることすべてを正確に書けるまでにすることが大事です。その学年で学んだことは、その学年の間にすべて正確に書けるまでにしましょう。

この「書き取り練習」は、一生に一回、今このときに行うのみだと思い、手が痛くなるまで行って下さい。このようにして身に付けたものは、一生忘れません。「書き取り練習」をしない限り、いつになっても覚えられない語句は山ほどあります。社会に出てからも「書き取り練習」を続けて下さいね。

(3)3つ目のポイントは、「計算・問題練習」をすることです。一度解いた問題を何度も解き直し、なぜそのような正解になるのかが十分に「理解」できたらどうするか。その計算や問題を見た瞬間に正解がパッパッパッと出てくるまで何回も「計算・問題練習」を繰り返すことです。

定期テストや模擬試験、本番の入学試験などでは、問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出る問題が多ければ多いほど、初めて解く問題や難しい問題をじっくりと考えながら解くことのできる「時間の余裕、ゆとり」が生まれます。

(4)私は、これらの「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を「定着のための3大練習」と名づけました。学力が高いと言われる人ほど、一度「理解」した教科書や教材、意味調べノート、授業中のノートなどの内容を「定着のための3大練習」によりスミズミまで正確に身に付けています。「練習は不可能を可能にする」ということばがあります。「定着のための3大練習」は、「不可能を可能」にします。以上が第2段階の「定着」のポイントです。

Q：第3段階の「応用」とは何ですか。

A：(1)「応用」とは、「理解」「定着」したことを用いて「テストでよい点数が取れる」とことと、社会で役に立てることです。

(2)よい点数とは、定期テストでは100点、模擬試験では希望校に合格できる偏差値、入学試験では合格点を意味します。

(3)よい点数を取るためには、過去に出題された問題や予想問題を5年分、同じ問題を5～6回繰り返してやってみるということです。

(4)間違えた問題は、すべて「間違いノート」に記録し、なぜ間違えたかを納得いくまで十分に研究することです。以上が第3段階の「応用」のポイントです。是非、本気でやってみて下さいね。

以上